第８４号　2016 年 7 月 31 日

東日本大震災 復興･支援活動ニュースレター
カトリック仙台司教区・カリタスベース

（宮古･大槌･釜石･障がい者センターかまいし･大船渡･米川･石巻･福島デスク･原町･もみの木･CTVC）

発行人：平賀徹夫
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
TEL022-222-7371　Fax022-222-7378
1）義援金振替口座:02260-9-2305
名義:カトリック仙台司教区本部事務局
2）支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

今回は、盛りだくさんのニュースをお届けいたします。まず、福島の原町ベースで「開設４周年記念イベント」と、これからの新しい第１歩を踏み出すため、新ベースの起工式が原町教会で行われました。次に、岩手県の大船渡ベースで再開された山浦玄嗣氏による「イチジクの会」という名称をもつケセン語聖書を楽しむ会。続いて、「障がい者自立センターかまいし」のスタッフの皆様から、「ライトハウス」の開所のお知らせなど、豊かな活動報告がありました。宮城県の石巻ベースからは、「七夕祭り」の楽しい模様、最後に被災地視察ツアーの参加者の方々から寄せられた声をご紹介しております。今後とも、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

カリタス原町ベース開設４周年記念イベント開催

CTVC カリタス原町ベース　畠中 千秋

2016 年６月４日、カトリック東京ボランティアセンター（CTVC）カリタス原町ベースの開設４周年記念イベントを催しました。今回は、「手作り軽食の提供」や「お持ち帰りのコーナー」、「ビンゴゲーム」などのお楽しみ会もあり、約 150 名の方々がお越しくださいました。

最初に、幸田司教様からご挨拶をいただき、その中で地元の方々のご理解とご協力への感謝の意を表してくださいました。

その後、「カリタスバンド」として、ピアノ、サックス、クラリネット、ドラムの演奏が 30 分ほど続きました。2 年前から交流のある小高商業高校のブラスバンド部の生徒さんや、元顧問の先生も転勤先の猪苗代から遠路はるばる駆けつけてくださり、カリタスバンドに参加してくださいました。飛び入り出演で、地元の方の三味線と民謡、歌謡曲の披露もあり、最後は、恒例の「相馬盆唄による盆踊り」を皆で輪になって踊りました。

今年うれしかったことは、昨年から預かり保育の手伝いや、月 1、2 回のママサロンなどで交わることが増えているさゆり幼稚園の園児が三々五々、お母さんたちと一緒に参加して、楽しむ姿が見えたことです。また、ヨーヨー釣りやおもちゃの金魚すくいなどの「こどもコーナー」では、孫のためにと、おじいちゃん、おばあちゃんが頑張るほほえましい姿もありました。また、日々の関わり中で、仮設集会所サロンで親しくしていただいている方々や、朝のラジオ体操仲間の皆さんも足を運んでくださいました。

このように、日ごろの関わりを通して、親しく交わりながら、お互いに信頼し合える関係ができ、お互いに寄り添い支え合える間柄になっていくことで神様のいつくしみが伝われば幸いです。

イベントの翌日は、「原町会議 第 11 回」を開催しました。幸田司教様、原町教会主任司祭の狩浦神父様、信徒の方、原町在住のシスターたち、CTVC 事務局関係者、原町スタッフ全員で、原町ベースの活動報告、これからの展望などを話し合いました。

＜地震・津波・原発事故・風評被害＞の被災をして、６年目に入りましたが、まだ解決しない課題を確認し、今後の支援をどう続けるか、話し合いは尽きませんでした。

最後に、これからも続く「ボランティア募集」のお願いです。現在、原町ベースが行っている主な活動は、以下の３つです。

①南相馬市小高区にある家屋の内外の整備の手伝い（避難指示解除決定に伴い、家屋かたづけの依頼が増えています。）

②鹿島区、原町区にある仮設住宅集会所でのサロン活動のお手伝い（避難指示解除準備区域の方々の仮設住宅で、避難指示解除の時期を待っています。）

③日本・世界各地からの希望者には、被災地案内と地元の方々の体験談を拝聴する機会を作っています。

お一人でも、グループでも、日帰りなど、様々な形で原町ベースを利用いただけます。ボランティア活動を通し、現在の姿を直に感じていただければと思っております。

～～「カリタス原町ベース新築工事　起工式」～～

７月４日、「カリタス原町ベース新築工事　起工式」が、カトリック原町教会で行われました。現ベースの大家さんから、ベース移転の打診があり、時間をかけて話し合った結果、原町教会敷地内の一部をお借りして、新しくベースを建てる方向で進もうということになり、この起工式が、原町ベースの新しい歩みの第一歩となりました。

午前 11 時 30 分、平賀司教様の司式により起工式が始められ、東日本大震災直後から CTVC の協力で、非常に助けられた感謝の言葉が述べられました。

聖書朗読の後、幸田司教様が、「人と人が出会い、その人と人のつながりを作っていくのがベースの役割である。新ベースには、ボランティアさんの宿泊の場、地域の人々、幼稚園の関係者、地元の人々が集まる場にしていきたい。それが、神との出会いの場になればすばらしい」と話されました。

その後、土地の祝福、くわ入れ式が行われ、共同祈願、主のいのり、聖歌が歌われ、起工式は終わりました。

新ベースは、２階建てで、クリスマス前に完成予定です。

起工式に参加された皆さま

「イチジクの会」発足

カリタス大船渡ベース　Sr.大畑八重子

カリタス大船渡ベースは、現在、ボランティア活動の拠点としてだけではなく、地域の方々が気楽に活用でき、学び、憩える場所として存在していくことが出来るようにと願いながら活動を続けています。

その一環として、5月から、第2と第4火曜日に、カリタス大船渡ベースにて、山浦玄嗣氏を講師にお招きして、聖書勉強会が開催されています。この勉強会は、震災の6年程前から、盛町の公民館で毎月「ケセン語訳聖書を楽しむ会」として開かれていたものです。この度の東日本大震災発生により、交通網が失われ、電気も通信網も絶たれ、それぞれが生き延びるのに精いっぱいだった中で、その会場も、家を失った被災者の避難所となり、この会は中断されたままとなりました。

しかし、震災後の苦難の中、2011年10月にギリシャ語の聖書を原典とする「日本語訳新約聖書四福音書 ガリラヤのイエシュー」、2015年に解説書として「イチジクの木の下で　上巻・下巻」という山浦氏の3冊の本が刊行され、それを機に勉強会が再開され、新たに「イチジクの会」としてスタートしました。

勉強会の名称を、なぜ「イチジクの会」としたのでしょうか？

山浦氏が、初回の講話で解説書「イチジクの木の下で」の表題の意味をこう話してくださいました。

「ヨハネ1章48節のナタナエルの言葉『どうしてわたしを知っているのですか』という質問に、イエスが『わたしは、あなたがフイリポから話かけられる前に、イチジクの木の下にいるのを見た』と言われたことに由来しています。『イチジクの木の下にいるというのは、聖書をしっかり学ぶ』という意味の、1世紀当時のヘブライ語における慣用表現です」と。この本の書名は、この故事からとっている、というお話でした。したがって、参加される方々が、聖書を楽しみ、講話を通じて難解な箇所を理解し、「私はこう思う」と自由に発言でき、人生を喜ばしく幸せなものに作り上げていく知恵を学ぶ場として、「イチジクの会」を理解していただければ良いのではないでしょうか。

毎回出席者は15名前後。大船渡のカトリック信徒のみならず、遠方の宮古から2時間かけて来られる牧師ご夫婦をはじめ、気仙沼からいらっしゃる方、ボランティア、被災地視察の方々、洗礼志願者の方やベースのスタッフなど、聖書に興味をお持ちの方々が集います。開催時間は、午後7時から9時頃まで。山浦氏の巧みな話術に引き込まれ、時間の経つのを忘れてしまいます。およそ聖書の話は難しく眠いのですが、とにかく楽しく、興味をそそられ、居眠りをしている暇がありません。途中のコーヒーブレイクと講話後の質疑応答で参加者との交流を図りながら、恵み多いひとときを過ごします。※インターネットで「YouTube　山浦玄嗣」と検索すると第1回の勉強会をご覧になることができます。

山浦玄嗣（やまうら　はるつぐ）氏のプロフィール

＜1940年東京生まれ。生後すぐ岩手県に移住、大船渡市で育つ。カトリック信徒の医学博士。新約聖書四福音書をギリシャ語の原典から東北方言「ケセン語」へ翻訳。2004年、特別謁見のなかで教皇ヨハネ・パウロⅡ世に「ケセン語訳新約聖書」を献呈した。2013年、教学賞や出版賞を受けている。言語学者・詩人・芸術家。＞

障がい者自立センターかまいしの近況報告

2016年度が始まり、すでに4か月が経過しておりますが、今年度初めから振り返り、読者の皆様にご紹介したいと思います。

○4月 お花見（小林）

今年の桜の開花は、全国的に早いもので、私たちのお花見の予定もかなり前倒しになりました。今年の行先は、市内の名所、唐丹町本郷地区です。こちらに利用者さんのご家族が経営されているジンギスカンとラーメンがおいしいと評判の食堂があり、店の窓からは大きな桜の木が見られるということで、「本郷に行くならあそこのお店」と、計画はすぐに決まりました。

天気予報では、明け方まで雨とのことでしたので、10名の利用者さんとスタッフ6名で、思い切って出かけようということになりました。お店では、みなさんの食べたいメニューを選んでいただき、やはりジンギスカンが人気でしたが、カレーやハンバーグ、さらにはお酒まで、それぞれ食べたいもの飲みたいものとともに、ゆっくりと窓外の桜を味わいました。

みなさんがお腹いっぱいになるころ、お店の中は昼食を摂られるお仕事中の方たちで賑わってきました。周辺は復興工事の真っ最中で、その作業に携わっている方々のご利用が多いとのことです。

天気もすっかり回復し、みなさんで桜並木に向かいました。本郷桜並木は、昭和三陸大津波からの復興を祈念して植えられたとのことで、先の大震災でも被害を免れていました。沿岸地域にありながら山に囲まれた静かな環境で、ゆっくりとお花を眺めていられます。歩いているうちに汗ばむような良いお天気になり、みなさんで早い春を楽しんできました。

○「ライトハウス」開所（小林）

新しい事業展開の拠点として、近所に物件をお借りし、主に相談支援事業を行い、重い障害の方々にご利用いただける施設としても整備していくこととなりました。5月連休明けから、「ライトハウス」として稼働し始めています。

「ライトハウス(灯台)」のネーミングは、利用者さんとのお話し合いの中から生まれました。従来の事業所の愛称「まりん」に倣って、海に因んだ名前をみなさんで考えてくださいました。

まだまだ本格的なご利用はこれからというところですが、相談支援事業の定着を図り、利用者さんの求めにお応えしていただける場所となるよう、努めてまいります。これに伴い、新しくスタッフも迎えておりますので、徐々に自己紹介ができればと考えています。

○「野染体験会」（山﨑）

5月13日（金）午前11時～午後1時半まで、「カリタス釜石」の駐車場をお借りし、「野染体験」が行われました。カリタス釜石の「ふぃりあ」に参加されている地元の方や、被災された方々、教会関係の人や「まりん」の利用者が、30数名集まりました。

幅 1.2m、長さ 10 数mの布を、建物の手すりと電柱にくくりつけ、特大の竹製の伸子（しんし）で布をピンと張り、これまた大きな刷毛にラベンダーや桜の葉、ヨモギ、マリーゴールド等の染料をたっぷり含ませ、思い思いに染めつけていきました。

空にかざした淡い彩の大きな布が風に揺らめくと、一斉に拍手が沸き上がりました。作品は、参加者全員で分けました。袋物やパッチワーク、小風呂敷、三角巾に仕上げられました。

ご支援下さったのは、京都在住の染色工芸家の斎藤洋さんと、ポコ（寺本さん）、ペコ（澤畑さん）ご一行です（団体名「風の布パピヨン」検索可）。3.11 以来、三陸沿岸の被災された方や、支援校、施設を巡り、野染を通して巨大複合災害によって失われた（失われつつある）人、動植物、風景を、皆で染めること（野染）、縫うこと（メモリアルキルト）を通じ記憶し、出会い、話を重ね、泣き、怒り、そして笑い合う時間と場所を一緒に作っていくことを大きな狙いとし、野染行脚を続けています。やわらかな色と出会いを楽しみにしています。

○「太田ふるさと交流まつり」に今年も参加（小林）

岩手県花巻市太田地域で毎年行われる、「太田ふるさと交流まつり」に今年も参加してきました。

６月 11 日、当日は好天に恵まれ、真夏日になるほどの暑さの中、私たちは海産物の販売を行いました。ホタテやイカの炭火焼き、ワカメや塩辛などたくさんの品物が並びました。天気が良すぎたので炭火焼き班は大変です。陽射しを避け、水分補給を心がけながらも、さすがに火のそばの作業はきついものがあります。ですが、多くのお客さまがいらしてくださり、中には「毎年これを楽しみにしている」とのお声をかけてくださる方もおられます。たくさん売れることもうれしいですが、こうしてお客さまとふれ合えることも、みなさんにとって貴重な時間になっているようです。

一緒に出かけた子どもたちは、「魚のつかみ取り」が楽しかったようです。園内の小川に川魚が放たれ、子どもたちがいっせいにつかみかかります。ところが、魚たちの動きの素早いこと。子どもたちの動きに水も濁り、見つけるのがより難しくなってきます。これも主催者側のねらいなのでしょうか（笑）。しかし汗にまみれ、尻もちでビショビショになりながら、ようやく一匹つかまえることができました！この貴重なさかな、さばいてもらって持ち帰りました。きっとおいしい塩焼きになったことでしょう。

まつりの締めくくりは「餅まき」です。岩手のイベントにはこれが欠かせません。袋を広げたり帽子で受けとめたりと、みなさん拾うのにいっしょうけんめいでした。暑さの中でしたが、たいへん楽しめるイベント参加になったことと思います。

○「花いっぱい運動」（藤原）

６月下旬、神奈川県中区社会福祉協議会や関係団体が募金活動をしてくださった資金を基に開催された「花いっぱい運動」に「まりん」も参加させていただき、ベゴニア、マリーゴールド、ペチュニアなどの色とりどりの花をプランターへ植え、大槌町の仮設住宅へとお届けしました。

住民の方々から「ありがとう！」「きれいね！」「みんなでがんばろうね！」というお声をいただき、逆に私たちの方が元気をもらって帰ってきました。仮設住宅の不自由な生活の中で、お届けした花々がほんの少しでも住民の方々の心の癒しになってくれたのならうれしく思います。

○最近の釜石の様子

大震災後、５年が経過しました。特には、名古屋からこちらにボランティア事業で見えられていたみなさまにお伝えできればと思います。

震災後、釜石市で最初に建てられた「昭和園仮設」が６月から撤去され始めました。跡地には、現在仮設で稼働している「釜石警察署」が建てられる予定です。こちらの仮設団地は、要配慮の方々が優先的に入居されたという経緯から、障がいをお持ちの方々も少なくなく、私たちも早くから出入りさせていただいていた仮設でした。交流が深まり、結びつきが強くなる中で、実に大きなおもてなしもしていただいたものでした。

当時の利用者さんは、すでに復興住宅に移られたり、施設に入所されたり、あるいはお亡くなりになられた方もおられます。私たちにとっては、ボランティア事業の象徴のような建物のひとつであったかも知れません。すでに重機が入り、棟がひとつずつ解体されていて、これが復興へ向かう姿なのでしょうが、やはりその場に立つと、あのころの風景がよみがえってきて、複雑な気持ちにさせられます。幸い、他の場所に移られた方々は、みなさまお元気でお過ごしと伺っています。以前のようなつながりは途絶えがちではありますが、決して失わないよう大切にしていきたいとあらためて思っています。

カリタス七夕祭り

カリタス石巻ベース　中村　愛

７月９日（土）、石巻ベースでカリタス七夕祭りを開催しました。昨年に引き続き２回目。今年は、ベース近辺に完成した復興公営住宅の方へもポスターを掲載。地域の方々との交流促進につながればと願い、行いました。

数日前から天気を気にしておりましたが、当日は雨。その雨の中、朝からベース裏の駐車場で準備を行いました。日帰りで来られるボランティアの方々も次々到着。外に飾る七夕の飾りや、担当スペースの活動内容の確認など、積極的に活動に参加してくださるボランティアさんたちの心が伝わってくる思いでした。

イベント開始は午前 11 時。少し前から小雨になり、ボランティアの方が「すごい。守られてる」と言われ、思わず、「本当だ」と思いました。

そしてイベント開始。オープンスペースの常連さんや、常連さんの宣伝で来られた方、町内の方が娘さんやお孫さんを連れてくるなど、雨の天気の中、約 60 名の方が来られました。中には、東京から被災地を視察に来て、たまたま日和山に行く途中、ベースを通りかかった大学生３名も参加。若い方でも被災地に思いを寄せてくださる方の存在を感じました。

提供した食べ物は、カレー、焼とうもろこし、焼き鳥、飲み物。これまでベースでやったことがない、焼き物が２つもありましたが、ボランティアの方々が手際よく焼いて、皆さんに出してくださいました。

催し物は輪投げ、水ヨーヨー釣りとじゃんけん大会を準備し、小さい子どもさんから大人まで参加してくださいました。特に、ヨーヨー釣りは夏の風物詩でもあり、色とりどりの水ヨーヨーを前に子どもたちの目が輝いていました。

そして当日飛び入りでボランティアの方々が、アコーディオンを演奏してくださいました。今回は、会場が駐車場とホールの２カ所に置かれていましたので、駐車場の会場とホール会場の両方で演奏してくださいました。駐車場の会場は、海外の街中に行ったようなノリノリの雰囲気。ホール会場は童謡などを参加者と一緒に歌うゆったりした雰囲気など、いつもと違う催しものの雰囲気でそれぞれ参加された方々が楽しまれておられました。

イベント終了の片づけもあっという間に終わり、その後、ボランティアの方からいただいた差し入れで、ボランティアとスタッフのみんなでお茶を飲み、お互いのことを知るよい時間になりました。

今回、イベントの中で、「熊本地震献金」を行い、1,238 円集まりました。無償で提供し、楽しんでいただいた中にも、それが当たり前になっている現状を痛感した場面でもありました。大変な苦労をされたことを察しつつも、今後の活動の在り方を見なおさないといけない時期に来ていると思いました。

今回のイベントを通して、改めてたくさんの方々の思いと支援があることに気づき、心から感謝いたしました。震災から６年目に入った今でもベースがあり、このような活動が出来ることは、普通では考えられないことだと思います。

神様が私たちを通して始められたこの活動！活動内容を見直しつつ、関わる方々に寄り添い続けることが出来たらと思います。ご支援くださった方々に感謝しつつ、これからも続けてご支援賜りますよう、よろしくお願いいたします。

駐車場の会場、ホール会場ともに
楽しい音楽で、皆さん笑顔になって
いました♪

被災地視察ツアー参加者の声

５月にて一旦終了しました被災地視察ツアーについて、参加された方々から感想をお寄せいただきましたので、一部ご紹介します。
※CTVC カリタス原町ベースやカリタス大船渡ベース、カリタス石巻ベースなどのカリタスベースでは、ボランティア活動の一環として、時間がある場合には、被災地案内も行っております。ボランティアお申し込みの際など、一度お問い合わせください。

視察ツアー４月Ｂ・５月Ａ参加者からの声

《４月Ｂコース参加者の声》

復興は間違いなく進んでいるものの、少しでも元通りに近づくにはまだまだ前途多難だなとやや重い気持ちになったのが実感です。
(大阪府　Ａさん)

写真上：福島の現状について話を聞く参加者（原町ベース）
写真下：宮城県亘理町荒浜地区の浪切地蔵尊

《５月Ａコース参加者の声》

各ベースの地域に根差した活動と被災と復興の状況について熱く語る姿が忘れられません。とても貴重な体験ができ、感謝をしております。センターとベースの皆さまの活動のご苦労は計り知れないことと思い、頭が下がります。

これからも、少しずつですが、ボランティアへの参加を続けていきたいと思っております。今後ともよろしくお願いをいたします。
（長野県　Ａさん）

このたびは、有意義な企画を誠にありがとうございました。

８月の 24 時間 TV や３月 11 日以外、関西の TV ではほとんど放映されなくなってしまった東北の沿岸被災地の現状を一部でも拝見できて、密度の濃い数日間でした。

今回は、ボランティアといっても作業をわざわざ用意していただくといった感じで、ほとんどがベース担当者の方の生の声をお聞きする時間でしたが貴重なお声ばかりでした。今度は視察でなく、数日でも滞在してのボランティアがしたいと思っています。

仙台教区サポートセンターの皆さま、また、各ベースの皆様にその都度、お時間をいただきまして、本当にありがとうございました。

職場や教会に戻りながら、東北（2 県のわずかな地域ですが）の今の様子をたくさんの人たちに伝えてきます。

お世話になりました。そして、これからもよろしくお願い申し上げます。(奈良県　Ｃさん)

写真上：農業支援の現場で実際に活動に参加（米川ベース）
写真下：大槌町の被災地域を説明するベーススタッフ（大槌ベース）